

全県連盟宛 H24-92 号 (事)

平成 24 年 12 月 11 日

日本ボーイスカウト都道府県連盟
理 事 長 各 位
県 連 盟 コ ミ ッ シ ョ ナ ー 各 位

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
事務局長 木 村 公



第 19 回全国スカウトフォーラム「採択文」の送付について

拝啓 時下ますますご清栄のことと存じます。

標記の件に関しまして、「第 19 回全国スカウトフォーラム」への代表スカウトの選出について、ご協力いただきありがとうございました。今フォーラムには、43 県連盟代表 43 人のほか、ガールスカウト日本連盟からも代表者 7 人の参加がありました。フォーラムの実施概要は別紙をご参照ください。

今回のフォーラムでは、Creating a Better World (「よりよい世界を創ろう」) のメインテーマのもと、4 つのサブテーマ (①環境被害や自然災害に備える ②第 23 回世界スカウトジャンボリー ③スカウティングとテクノロジー ④ちかいとおきて) に基づき討議を行いました。分科会において、テーマ毎の「採択文・アクションプラン・提言」を作成し、全体会においてそれぞれをまとめた最終的な「採択文・アクションプラン・提言」を作成し、フォーラム実行委員長 (日本連盟プログラム委員長) に手渡しました。

「フォーラムの採択文・アクションプラン・提言」を別紙のとおり各位へ送付いたしますので、内容をご確認いただき、貴県連盟内へのご周知を何卒よろしくお願いいたします。また、貴県連盟において、代表スカウトの報告会やアフターフォーラムの開催など、具体的な協議の場を設定していただき、次回フォーラムに向けて継続的な展開が図れますようにご配慮いただきたく、別紙「参考資料」の内容についても重ねてお願い申し上げます。

敬具

記

<送付資料>

1. 全県連盟宛 H24-92 号 (事) 発信文書 (本状)
2. 第 19 回全国スカウトフォーラム 実施概要 (別紙)
3. 第 19 回全国スカウトフォーラム 採択に関する説明 (補足資料)
4. 第 19 回全国スカウトフォーラム 「採択文・アクションプラン・提言」

以上

<備考>

- ・採択文は、日本連盟ホームページに掲載されております。
- ・第 19 回全国スカウトフォーラムの実施報告は、スカウティング誌 1 月号にも掲載されます。

この件についてのお問い合わせ・連絡先
日本連盟事務局 教育部 事業・プログラム課
Tel 03-5805-2634 Fax 03-3830-3678 E-mail program@scout.or.jp





開催日時：11月23（金）14：00～25（日）12：00 2泊3日
 開催場所：福島県・国立磐梯青少年交流の家
 主催：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
 協力：日本ボーイスカウト福島連盟
 後援：猪苗代町、猪苗代町教育委員会、福島県教育委員会、国立磐梯青少年交流の家、他
 参加者：県連盟代表ベンチャースカウト／43県連盟43人、ガールスカウト日本連盟／7人
 オブザーバー：福島連盟ベンチャースカウト／7人
 スタッフ：実行委員／7人、アドバイザー・奉仕スタッフ／7県連盟10人、現地支援委員／5人

1974年に第1回目が開催され、今回で第19回目を迎える全国スカウトフォーラムが福島県・国立磐梯青少年交流の家で11月23日～25日の期間開催されました。フォーラムテーマである「Creating a Better World～よりよい世界を創ろう～」のもと、4つのサブテーマに分かれて討議しました。フォーラムのプログラムは次のとおりです。

- サブテーマ**
1. 環境被害や自然災害に備える
 2. 第23回世界スカウトジャンボリー
 3. スカウティングとテクノロジー
 4. ちかいとおきて

初日は開会式に続いて基調講演が行われました。



講師
 会津藩校 日新館 館長 宗像 精 氏
 講演テーマ
 「なぜ今、ならぬことはならぬのか
 ～21世紀を生きる君たちへ～」

基調講演に次いで、県連盟フォーラムの発表も行われました。各県連盟の代表が作成した模造紙をもとに、参加者による投票を行い、得票数の多かった3県連盟とガールスカウトを代表して茨城のスカウトが発表を行いました。

福島連盟 会津若松第1回 坂田 陽 「大震災をうけて、今すべきこと」	栃木県連盟 宇都宮第18回 都甲 好栄 「Creating a Better World」
東京連盟 練馬第15回 加藤 悠貴 「23WSJに向けて、自分たちに何ができるのか」	ガールスカウト茨城県第17回 稲野遼 若葉 「よりよい世界を創ろう」



2日目の午前中は、見学プログラムを実施しました。初日の基調講演に絡めて、日新館を訪問した他、少年団日本連盟（現在のボーイスカウト日本連盟）第1回野営大会の地として記念碑が置かれている、猪苗代湖の天神浜にも足を運びました。



2日目の午後からは、分科会と全体会を行いました。4つのサブテーマに基づき8つのグループに分かれ、それぞれ採択文とアクションプラン・提言を作成しました。



3日目の全体会Ⅱでは、前日に作成された各グループの採択文に基づき、全体としての「採択文・アクションプラン・提言文」作成作業を行い、フォーラム議長よりフォーラム実行委員長（日本連盟プログラム委員長）に手渡されました。



第1日目	第2日目	第3日目
開会式	見学プログラム	
基調講演		全体会Ⅱ
フォーラム オリエンテーション	分科会	
県連盟フォーラム発表	全体会Ⅰ	閉会式



第19回全国スカウトフォーラム「採択文・アクションプラン・提言」に関する説明

今回の採択は、全国のベンチャースカウトたちがすぐにでも企画し、行動を起こせる内容として協議し、作成したものです。以下をご確認いただき、貴県連盟内へのご周知をお願いいたします。全国のベンチャースカウトたちの生の声を集めた意見です。それぞれのお立場から具体的なご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

- (1) 添付の標記資料は、第19回全国スカウトフォーラムに参加した43都道府県の代表とガールスカウト日本連盟の代表が、記載された内容を1行ずつ協議し、確認と承認を繰り返しながら取りまとめたものです。4つのサブテーマ毎に記載されています。
- (2) 「採択文」は参加したベンチャースカウト（以下、VSとします）たちが全国のVSたちに投げかけた言葉で、いわば「VSの全国的な活動スローガン」に相当する内容です。
- (3) 全国のVSたちが、それぞれの地域・環境の中で、具体的に行動を起こそうという実践的な提案内容がそれぞれの「アクションプラン」となります。VSが取り組めるようご支援いただき、また、取り組むようにご指導ください。
- (4) 「提言」の内容は全国のVSが行動を起こすにあたり、県連盟（地区）や日本連盟に対して支援を求める具体的な内容です。日本連盟としては、各種会議や委員会での検討を実施いたしますので、県連盟（地区）でも内容に基づいた具体的なご支援をお願いいたします。

参加代表スカウトの報告会や県連盟アフターフォーラムを開催していただき、参加した代表スカウトによる「採択文、アクションプラン、提言」に関する報告と説明の場を設けていただくとともに、貴県連盟内のVSたちが、アクションプランの実施に向けた話し合いの場を設けていただくようお願い致します。

来年度の全国ユースフォーラム（RS対象）や次回の全国スカウトフォーラムに向けて、また海外で開催されるアジア太平洋ユースフォーラムや世界ユースフォーラムにつながるよう、VSやRS世代の、県連盟や地区、団（隊）単位でのフォーラム開催について、ご支援・ご協力をお願いいたします。

ベンチャー隊指導者・地区・県連盟担当者の皆様へ

<採択文・アクションプランを実行（プロジェクト化）する際のお願い>

ベンチャースカウトが採択文とアクションプランを実行（プロジェクト化）する際には、次の点にご留意頂き、スカウトに対するご支援・ご指導を頂きますようお願いいたします。

- ・採択文とアクションプランをベンチャープログラムの題材としてご活用下さい。
- ・プロジェクト法を用いてご指導下さい。
- ・単位は、個人でも、グループでも、地区単位でも構いません。
- ・ベンチャープロジェクト（アワードの取得）として取り上げて頂いて構いません。8つの分野のどれにもあてはまりますので、柔軟な創造をして対応・指導をお願いします。
- ・目的（何を）・目標（どのレベルまで）を決めてスタートして下さい。その場合、目標（どのレベルまで）は3～5個程度のポイントを決めておくと、後の展開と支援がスムーズに進みます。
- ・NGOやガールスカウト等の諸団体を訪問する場合は、詳細な打ち合わせが必要です。
- ・地球的レベルで考えて身近なことから展開して下さい。
- ・ベンチャー隊指導者の皆さんのネットワークの活用をお願いします。

第 19 回全国スカウトフォーラム採択

私たち、第 19 回全国スカウトフォーラム参加者は「Creating a Better World」のテーマの下、福島県・国立磐梯青少年交流の家での 2 泊 3 日にわたる議論を通し、より良い世界を創るために全国のベンチャースカウトが具体的なアクションを起こすべく、以下のことを採択し、アクションを起こしていくことを誓い、提言します。

1. 環境被害や自然災害に備える

採択文

ボーイスカウト・ガールスカウトの地域とのつながりが薄いと、災害時に助け合うことが難しいと考えたので、災害時により助け合えることをできるようにする。

アクションプラン

- ・ スカウトの日・ふれあいの日にガールスカウトや地域の方々と一緒にゴミ拾いを行うことで、お互いのつながりを持つ。
- ・ ベンチャースカウトとレンジャースカウトが自分たちの地域のハザードマップを見直し、それをよりわかりやすくするために字を大きくする、写真を貼るなどの工夫をしてハザードマップを作り、作った地域の各家庭に配布する。
- ・ ハザードマップをもとに半年に 1 回程度、避難所までの避難訓練を行う。
- ・ 地域の方々に防災についての意識を高めてもらう機会をベンチャースカウト及びレンジャースカウトが企画・運営・指導し、災害が起きたときに技能を活用してもらう。

提言

- ・ 2013 年末までにボーイスカウト日本連盟にガールスカウト日本連盟へスカウトの日を制定してもらうよう提案することを提言する。
- ・ ボーイスカウトへふれあいの日を制定するよう日本連盟へ提言する。
- ・ ボーイスカウト日本連盟がガールスカウト日本連盟にスカウトの日に実施する内容を各団に届くように通達してもらうように提言する。

2. 第 23 回世界スカウトジャンボリー

採択文

ジャンボリーでは大会に参加していないスカウトに対して大会中の活動の様子が伝わりにくくなっている。また、言語の問題により国際交流に対する意識が薄い人が多い。そこで、大会に参加していないスカウトやスタッフでも楽しめるジャンボリーにすることで、国際交流に対する意欲を向上させていく。

アクションプラン

- ・ 大会期間中に大会のプログラムがない「スローライフ Day」を設けてもらい、スタッフにも楽しんでもらうため、ベンチャースカウトが自由参加のプログラムを企画・実施する。
- ・ ベンチャースカウトが日本各地の文化を知ってもらうために各隊に地域自慢を求め、大会のテントサイト入り口に掲示する。
- ・ 言語の問題を解決するために、ベンチャースカウトが自隊で英語を用いた活動を企画し、継続的に行っていくことで英語を身につける。
- ・ 大会に参加しているスカウトが他の人に対して大会中の活動の様子を伝えるために各自の目線で動画や写真を大会ホームページに投稿する。

提言

- ・ ジャンボリーでスタッフや参加者全体が楽しめる「スローライフ Day」を設けることを提言する。
- ・ 第 23 回世界スカウトジャンボリーのホームページに大会参加者が自由に動画や写真の投稿をすることができるコーナーを大会開催半年前までに設立することを提言する。

第 19 回全国スカウトフォーラム採択

3. スカウティングとテクノロジー

採択文

私達、ベンチャースカウトはインターネットを活用できる環境にある。その環境を利用し、スカウト同士でコミュニケーションをとりたい。

アクションプラン

- ・ 情報の取り扱いについて、各スカウトで書籍・資料から知識を得る。それを踏まえ身近な話題であるインターネットでのコミュニケーションにおける注意点を、指導者を交えて隊で話し合い意見を共有する。
- ・ 自分たちで行ったプロジェクトを電子データ化し、インターネットで発表して共有する。

提言

- ・ 次回のスカウトフォーラムでの、フォーラムテーマのひとつに「情報の取り扱い」を組み込むことを提言する。
- ・ インターネット上で各自のプロジェクトを発表、共有できる環境を作ること提言する。

4. ちかいとおきて

採択文

ボーイスカウトは「ちかい」とおきて、ガールスカウトは「やくそく」と「おきて」を意識した活動を、多くの方が実行できていないと感じたので、その現状を解決するために、普段の活動をふり返り、様々な角度から意見を取り入れ反映する。

アクションプラン

- ・ 「ちかい」と「おきて」の再認識と、意識の向上を図るために、定期的に「ちかい」と「おきて」の中から項目を選び、討議をする集会を、隊・地区単位で実施する。
- ・ 各県のベンチャー・レンジャーでボーイスカウトとガールスカウトの交流の場を企画し、「ちかい」と「おきて」、「やくそく」と「おきて」を相互に理解し、それぞれの活動に取り入れる。
- ・ 後輩が参加できる形として、「ちかい」と「おきて」、「やくそく」と「おきて」の項目を課題として取り入れた野外活動をベンチャー・レンジャーが都道府県単位で企画し、団毎に実施する。

署名

山形 明子	箱野 邊 若葉 (GS)	佐藤 浩太郎 (M7)	山元 踏 悟	高野 大地	早川 ひろみ
佐藤 豊大	鮎田 裕子 (GS)	佐藤 健伍	田代 篤 未 気	上野 真代	坂田 陽
千葉 佳菜子 (GS)	村田 幸之介	内田 早紀	柳澤 幸 紀 己	川辺 大 輝 輝	矢作 早 菜
牧 航 平	秋 場 昌 吾	豊 島 萌 生	藤 井 貴 之	溝 部 光 優	比 村 奈 織 希
須藤 悠世	新 田 祐 己	大 田 弘 樹	渡 辺 琢 哉	谷 脇 圭 介	若 月 耕 子
加藤 悠貴	姓 野 壮 直	丹 村 衣 里 (GS)	渡 邊 琢 哉	黒 川 明 晴 (GS)	川 島 歩 佳
松岡 悠和	田 中 雅 衣	三 中 翔 太 郎	紫 藤 未 徹	塩 治 佑 介	都 甲 好 栄
大石 花梨	佐藤 美 穂 (GS)	宮 城 裕 治 平	長 渡 欠 明	渡 部 隆 一 朗	

オブザーバー

諏訪 祐 輝	夏 井 紳 太 郎	土 屋 航 輔	橋 悠 一 郎	高 木 隼 人	星 奈 津 実
作 藤 春 日					

平成 24 年 11 月 25 日

議長 柴田 大介
副議長 池上 太悟
副議長 山本 明博